

郷土こぼれ話

地域の神様 ⑮ 代のとげ抜き地蔵

代の妻沼線跡地近くに、写真の祠があります。東善寺の前から柿沼に通じる道路と、旧妻沼線が交わった近くにあります。この祠は、人々から「とげ抜き地蔵」と呼ばれています。

さて、とげ抜き地蔵として有名なお寺があります。東京の巣鴨に萬頂山高岩寺というお寺があります。本尊は地蔵菩薩（延命地蔵）ですが、「とげ抜き地蔵」の通称で知られているお寺です。

高岩寺は、奈良にある集福寺の五世扶嶽大和尚が開祖とされています。集福寺と高岩寺は、親子関係のようなお寺となっています。集福寺は萬頂山集福寺、そして高岩寺は萬頂山高岩寺と、山号が共通なのは、2つのお寺が親子関係であることを物語っていると思われます。

高岩寺には、こんな言い伝えがあります。……『徳川家継の時代田付氏の妻が重い病にかかった。田付氏は、妻が日頃信仰する地蔵尊におすがりし、一万体の御影（神仏



代の「とげ抜き地蔵」

の姿絵) を作り隅田川に浮かべ、一心に祈った。妻は快方に向かい以後無病になった。この話を聞いた人が、御影をもらい間違っ
て針を飲んでしまった女の人に、その御影を飲ませた。女の人から御影に針が刺さったまま吐き出された。それ以来、お地蔵さまはとげ抜き地蔵と呼ばれるようになった。』……

集福寺は曹洞禅宗の寺で、鎌倉時代後期の永仁年間に圓明國師により開創された。当初は臨濟宗だったが、室町時代の永正年間に桂室秀芳が中興し、曹洞宗に改宗した。格の高い寺だったので、鎌倉幕府からは下馬札、豊臣秀吉からは殺生禁止札を拝領、天正末期には徳川家康から御禁制札を拝領、さらに慶長九年に寺領二十石を受けている。本尊は千手観音である。この寺の最大の特長は、七堂伽藍で、かつては壮大な建物群を誇っていた。

集福寺の影響が代に及んでいたことは想像に難くないでしょう。「代村」から「柿沼村」に続く古くからの道の端に、集福寺の子ども格の寺というべき高岩寺の祠があっても不思議ではありません。祠の中には、とげ抜き地蔵のお札や幣束が納められていたことでしょう。

参考資料：関口一男「旧奈良村の神社・仏閣と遺跡」

猫の足あと（高岩寺）

文・写真：むらた ひとし

大幡公民館だより別刷り 平成30年 9月